



## 巻頭言

## 多くの本を読もう

読書は、一人静かに文字を追う孤独な作業ですが、文字の奥にある世界は自分の解釈で無限に空想できます。現実での体験やマスメディアの断片情報も役立ちますが、読書は心の中で文字という何もない無味乾燥な集合から、それぞれにその意味を抽出する作業を強います。

つまり画像や体験のような受動性ではなく、能動性が問われ、深い理解は想像力を育ててくれます。このように多くの本を読むことは想像力が高まる。色々な話題が豊富になる。語彙力が豊富になる。何よりも時代を超えて読まれてきた思想や考えを学ぶことができます。知識として仕事に役立つだけでなく、人生の選択肢を広げたり、体系化された情報を得ながら自分の考えを的確に表現できる能力を養うことも可能です。さらに読書は個々の自律した人格を育てる上でも重要な作業です。

昨今、電車に乗ると座っている横並びのほぼ全員がスマホを見ながら操作している姿は、古い時代を生きてきた者として異様な姿、人々の孤独を感じます。

多くの本を手にとり、その本の好きな部分だけ読もう。全部読む必要はありません。

本に触れ合う時間をつくるのが新しい自分の発見につながると思います。

図書館が皆さんを待っています。



図書館長 加藤 亮二

### ◆ ◆ ◆ 目 次 ◆ ◆ ◆

1. 随想 .....	2
2. 特集「岡山温羅じゃ伝説」 .....	4
3. 私のすすめる一冊 .....	10
4. 純真学園図書館 利用案内 .....	13
5. 図書館だより .....	16

## 随 想

## 則天去私

純真学園大学 保健医療学部 医療工学科  
伊藤 英史

**近**頃、「チル」という言葉がSNS<sup>注1)</sup>上を中心として若者の間で広く使われている。語源は英語の“chill-out”からきているようで、「ゆったりと過ごす」とか「ポーッと自分の時間を過ごす」のような意味である。この「チル」という言葉が流行る理由はどこにあるのか？寝ても覚めてもスマホを離さない、そしてSNS上で他人とのコミュニケーションを活発化させる。確かに便利で、ある意味、自己の存在について他者を介して確認するにはなくてはならないツールである。

一方では、昼夜を問わず、何処に居ようと、何をして居ようと御構い無しに関係を構築しようとする無限の繋がりに振り回され、気がつけば自らがその一部分として溶け込まれている。ここに違和感を覚え始めると、束縛から逃げ出し、自然の中で癒されるような、ゆったりとした自分だけの時間を過ごしたいという欲求が沸き起こる。情報化社会に嫌気がさして、疲れ果ててくるのだ。

いよいよAI<sup>注2)</sup>社会が加速して身近に迫ってきている。この事実について、その担い手である生物としての人間には、利便性を享受するのとは裏腹に、何かしらの拒みたいものがあるように思える。パトナムの「培養液に浸され電極につながれた水槽の中の脳」<sup>注3)</sup>ではないが、完全にこのAI社会から隔離されるためには、人間は生物として生きることをやめ、究極はこの肉体さえも捨て去る勇気を持つことしか残された道はないような気さえてくる。

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。  
意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい<sup>注4)</sup>

夏目漱石先生の時代のような向う三軒両隣の世間ではない。ネット拡散すればすぐにでも、いつでも、どこでも、世界中の誰とでも繋がることできる。世間の規模拡大が指数関数的で比較にならない。未来が近づいてくる感覚もまた同様である。肉体を捨て去るのか、はたまた、AIを拒むのか、いよいよ選択する時が迫っている。

悠久の静寂に「則天去私」の言葉が私の琴線に触れている。

注1) SNS: Social Networking Service. 人と人とのつながりを促進、サポートする「コミュニティー型の会員制のサービス」

注2) AI: Artificial Intelligence. 人工知能

注3) ヒラリー・パトナム『理性・真理・歴史—内在的実在論の展開』法政大学出版局、2012。

注4) 夏目漱石『草枕』新潮文庫、2005。



## 随 想

## 「ありがとうの花」

純真短期大学 こども学科  
田中 美江

「あ りがとうの花が咲くよ、君の街にもほらいつか、ありがとうの花が咲くよ、みんなが笑っているよ」

2011年に起きた東日本大震災から7年を経た今年、私たちの目の前でこの歌を歌ってくれた子どもたちに、あふれる涙を抑えることができず、声をあげて泣いてしまった。

そもそも、私たちアートムジカがこの東北の地を訪れるようになったのは、東日本大震災直後に岩手県を訪問されたある先生の、「自分の目で見てきて！」という言葉に、心が動かされたからである。

私たちにできることは何だろう？これまで保育士養成校に身を置き、その中で子どもたちに笑顔を届けたいという気持ちで10年前に結成した「アートムジカ」（音楽と絵画をコラボレーションしたパフォーマンスユニット）。これしかない、と思った私たちは、岩手県へ行くことを決意しました。

日本保育協会岩手県支部の先生方のご協力のもと、岩手県沿岸の町の久慈、宮古、釜石、大槌、大船渡市の保育園で公演をさせていただいた。そこで目の当たりにしたのは、〇〇保育園と記された門だけが瓦礫の中にポツンと残されている状況であった。子どもたちを抱えて裏山に駆け上がり、やっと難を逃れたという話は生々しかった。

避難先のお寺では、「オオカミと7匹の子ヤギ」を公演したが、子どもたちは公演中ずっと集中して、食い入るように観てくれた。会場のみんなで「ドレミの歌」を歌ってまさに終わろうとした時、「子どもたちから感謝の気持ちを込めて歌をプレゼントします」と歌ってくれた「ありがとうの花」の歌が、冒頭の歌なのである。

それ以来ずっと耳に残っていた歌を、7年を経てやっと実現した2度目のボランティア公演で再び耳にした。どちらが元気をもらっているのだから。思いは3度目に馳せている。



公演に同行して下さった保育協会のお二人とモデルになって  
下さった保育園の先生お二人とアートムジカの記念写真



## 特集「岡山温羅<sup>うら</sup>じゃ伝説」

純真学園大学 保健医療学部 放射線技術科学科  
森川 恵子 (出身：岡山県)

「晴れの国おかやま」、晴れの日が多く、降水量 1 mm未満の日が全国で1番多いことからその名がついたこの地は、マスカットや白桃といった「くだもの王国」として知られますが、桃太郎のゆかりの地となる吉備王国の伝説の地でもあります。今回は、桃太郎伝説の由来となった岡山県の伝説を、史跡を辿りながらご紹介します。その名も「岡山温羅じゃ伝説」。少々怖い箇所もありますので、決して夜中に独りでは読まないでください (?)

### 桃太郎伝説

日本の有名なおとぎ話の一つである「桃太郎」は、ご存知の通り桃から生まれて成長したのちにきびだんごを携え、犬・猿・雉を引き連れて鬼ヶ島へ鬼退治に行く物語。その桃太郎のモデルと言われるのが吉備津彦命で、日本書紀にも登場する古代日本の皇族の一人です。一方鬼のモデルとなるのが、異国である百済から吉備国に空をとんでやってきたといわれる温羅 (うら)。身の丈一丈四尺 (約 4 m)、瞳は血の色にぎらつき、髪は燃えるように赤く、船を略奪したり女子供をさらっては釜ゆでにして食べるため、凶悪な鬼神として人々は恐れおののき、その居城を鬼の城 (鬼ノ城) と呼んでいました。人々の訴えを聞いた大和朝廷は、討伐の武将を差し向けたるもことごとく敗れ去り、ついに派遣されたのが武勇の誉れ高い吉備津彦命。ちなみにこの時連れていたのは犬・猿・雉ではなく犬飼健 (いぬかいたける)・楽々森彦 (ささもりひこ)・留玉臣 (とめたまおみ) という 3 人の家来。犬飼健は主に忠実で、敵に向かって勇敢に向かっていくことから「犬」、楽々森彦は猿のように知恵が働き、道案内としても優れることから「猿」、留玉臣は我が身を投げ打っても主につくす雉のような忠誠心があるので「雉」と、それぞれ呼び名がつけました。

ところでおとぎ話の中の桃太郎の桃は、吉備津彦命がまだ大和の国の皇子だった10歳のときの出来事に由来します。当時からすでに賢くて弓矢の名手との聞こえが高かった吉備津彦 (当時は五十狭斧彦: いさせりひこ) 命は、ある日山賊にさらわれた妹を助けに、勇敢にもたった一人で弓を携えて山賊の棲みかに行きます。しかし山賊の頭は、木になっている 2 つの桃を指し、あの桃をその矢で射抜くことができれば、右の桃なら妹を、左の桃ならお前を帰してやろうと言います。つまりは 2 人ともは生きては帰れない無理難題。そこで吉備津彦命は知恵を絞り、こっそりと 2 本の矢を重ねて、神に祈って矢を放ちます。すると 1 本の矢は右の桃、もう 1 本は左の桃を見事に貫きました。これには山賊も驚き、二人とも帰さざるを得ませんでした。



岡山駅前で見張っている桃太郎像  
(岡山市)



岡山名物吉備団子 (廣榮堂)  
～イラストは絵本で有名な五味太郎～

## 🍑 温羅との戦いと伝説の地

大和朝廷から温羅退治に送り込まれた(吉備津彦)命は、大群を率いて吉備国に下り、**吉備の中山**(中山茶白山:吉備津神社の南側に位置)に陣取って防戦用の石楯を築きます(**楯築遺跡**)。この時戦いに使う弓矢に勝利を祈願するため用いた岩が**矢置石**で、吉備津神社入り口にあり。鬼の城に向けて一斉に矢を放つと、鬼たちは右往左往して逃げますが、最後は命と温羅の一騎打ちに。しかし命の射た矢は、鬼の城から温羅が投げた岩とことごとく空中でぶつかって落ちてしまいます。その矢が落ちた場所に建てられたのが**矢喰神社**で、現在でも**矢喰宮**(やぐいのみや)にはその弓矢が祀られ、境内には大きな岩が5つ点在しています(**矢喰の岩**)。

勝負がつかない戦の中で、命の頭にふとよぎったのが2つの桃を射抜いた昔の記憶。命は神力を現して一度に2本の矢を放つと、その1本が見事に温羅の左目に命中、あふれ出た血は川となって流れ(**血吸川**)、下流の浜は真っ赤に染まりました(**赤浜**)。温羅は驚いて雉に姿を変え山中に逃げますが、命はたちまち鷹となって追いかけます。命に捕まりそうになった温羅は、今度は鯉に姿を変え、血吸川に逃げ込みます。命も直ちに鵜に変身、血吸川を逃げる温羅を見つけて噛み上げ、ついに捕まえます。この鯉を喰い上げたところが**鯉喰神社**です。

命は温羅の首をはね、首村(岡山市**首部**:こうべ)でさらし首にしました。しかし温羅の首からは薄気味悪い唸り声が、いつまでも出続けます。そこで(現在の)吉備津神社の御釜殿の下に埋めますが、それでも唸り声は止まず、13年にもわたり近里に鳴り響いたといいます。そんなある夜、命の夢枕に温羅が現れ、「妻の阿曾媛に釜殿の神饌を炊かしめよ。世の中に幸いあれば、カマドは豊かに鳴り、禍あれば荒荒しく鳴るだろう」と告げました。これが吉備津神社の**鳴釜神事**(なるかましんじ)の始まりと言われ、その通りにすると唸り声が止んだといいます。以後吉備の国を治めることとなった命は、吉備津彦と改名してこの国の繁栄と安泰を導きました。

### 【阿曾媛】

鬼の城の麓に阿曾の郷(総社市阿曾)があり、温羅が寵愛した女性が阿曾の媛だったことから、**鳴釜神事**は代々この阿曾の郷の娘が阿曾女(あそめ)として、御釜殿でこの神事に仕える巫女を務めています。



矢置石  
～吉備津神社入り口～



矢喰神社  
(岡山市)



矢喰の岩  
～矢喰神社境内～



鯉喰神社  
(倉敷市)





古代山城 鬼ノ城 (総社市)  
～日本 100 名城に選定されている～



鬼ノ城  
～土囊の下から見た城～



鬼ノ城西門跡

【鬼ノ城西門跡】

鬼ノ城は、4 か所に城門を設けています。  
西門は、南門と同規模の大型の城門で間口 3 間 (12.3m)、中央 1 間を通路とし、2 間の奥行をもち、12 本の柱で上屋を支えます。柱は一边最大 60cm の角柱を 2m ほど埋め込んでいます。西門は日本最大の古代山城大野城の大宰府口城門 (間口 8.85m) をしのぐ、壮大堅固な城門です。



吉備線電車  
～桃太郎伝説ラッピング列車～



吉備津神社参道  
～左奥に見える山が吉備の中山～

## 『雨月物語』—吉備津の釜—

江戸時代の怪奇小説集、上田秋成の『雨月物語』に「吉備津の釜」があります。長いので有体に言えば、顔は良いが身持ちの悪い男に誠心誠意尽くし続けたあげくに別の女性と駆け落ちされた妻が、心痛のあまり命を落とし、怨霊となって夫をとり殺す話。その妻というのが吉備津の神主、香央造酒（かさだみき）の娘で、容姿麗しく、上歌や琴に優れており、孝行者で気立てもよかったというからなお悲しい。そもそもこの結婚、一向にまじめに働かない息子に業を煮やした父親が、良い嫁でももらえば変わるだろうと期待して企んだ縁談でした。そして結婚しても相変わらず遊んでばかりの夫に対して、この妻は怒る夫の両親からもかばい続け、のちに夫と駆け落ちすることになる女の身の上を案じてこっそりと金品を渡して、彼女の世話までやっていた妻だったのです。

そして圧巻は怨霊となった妻が呪い殺すくだり。怨霊として死後この世をさまよう四十九日の間、陰陽師の呪符を家中の戸口や窓に貼って呪いから身を守る夫は、夜な夜な家の外を歩き回るすさまじいまでの怨霊の恨みの声に耐え続ける。呪符の力で怨霊はどうしても家には入れない。そして最後の物忌みの夜、とりわけ用心して過ごすが、なぜかこの夜は怨霊も出てはこない。そのうちに明け方の空が白々と明るくなり、ああ、やっと夜が明けた、ここまでくればもう大丈夫と、夫がほっとして戸をごろりと開けると、明るいと思ったはずの空はまだ暗く、月はおぼろに中空にかかっている。その瞬間、「ぎゃああああ!!!」という辺りをつんざく叫び声とともに夫の姿は失せ、あとには戸口から地面へと流れ落ちるおびただしい血と、軒先に引っ掛かって揺れている夫の髪の毛だけが残っていた…。

げに恐ろしきは、怨念かな。なんだかあまり真剣に旦那に尽くすのも考えものだと感心したくもなるが、ここで大事なのはそこではなく、この結婚、実は結婚前に占った神事で、凶と出ていたということ。吉備津神社の鳴釜神事で、不吉なことに釜は静まり返っていたにもかかわらず婚儀を進めたことから、御釜祓いの凶兆はやはり間違いなく、まことに神意は畏れ多いものだと、人々は語り伝えたのでした。



雨月物語  
(岩波文庫)



版本「雨月物語」挿絵  
～妻の亡霊に会う夫～



水木しげる「雨月物語」  
～内表紙に描かれた吉備津宮～



吉備津宮(吉備津神社内)  
～温羅が祀られている～



水木しげる「雨月物語」挿絵  
～吉備津の釜～



## 鳴釜神事

鳴釜神事は、吉備津彦命に祈願したことが叶えられるかどうかを釜の鳴る音で占う神事です。吉備津神社境内の全長約380mにもなる長い廻廊を渡った先にある御釜殿で行われます。御釜殿は慶長17(1612)年に再建されたもので、もとは白木造りでしたが、毎日釜を薪で焚くその煤で部屋全体が黒くなったとか。温羅の首は釜から約3m下に祀られているといひます。祈願した神札を釜の前に祀り、神官が祝詞を奏上。釜で沸かした湯の上においたセイロに、「阿曾女(あそめ)」と呼ばれる女性が玄米を振ると、鬼の唸るような音が鳴り響き、その音の大小や長短によって吉凶を判断します。ただし吉凶の答えについて神官からは何も言われず、自分の心でその音を感じ判断することになっています。

というわけで、見ると聞くとは大違いかもしれないので、実際にこの鳴釜神事を体験してきました。予め本殿で御祈祷を済ませたうえで、長い廻廊を渡って御釜殿へ移ります。部屋の女性が竈に薪を入れて準備にかかり、その火が大きく燃え盛ったところで、神官が来るまで待っておいてと言ひ残して退座、あとはぽつんと座って待つことに。紙垂(しで)としめ縄で祀られた大竈を、暗黒のような黒い壁と天井に囲まれて見ていると、この神事の持つ圧倒的な異界の雰囲気呑まれる。本当にこの竈の下3mに温羅の首があるのだろうか。この日は夏、災害級の猛暑続きとあって外気温は37℃のところへエアコンなしの木造建築、しかも炎が燃えさかる竈の前にいるのに暑さを感じないのは何故なのだ…。

さて、竈の火がそのうち細くなり、消えるのではないかと心配しだした頃に神官と白装束の阿曾女が現れ、入口の戸がびしゃりと閉められる。と、とたんに不安にとらわれる。

(怖い…。)

(もし鳴らなかったら、どうするの…?)

もはや祈りが叶うかどうかはどうでもよく、地獄の審判でも受けるかのような心境になる。

竈の火は、薪が新たにくべられて再び盛んに燃え上がり、釜の上に置かれたセイロからは湯気が立ち上がる。神官が厳かに祝詞を奏上し出したまさにその時、びっくりするほどの大音量で唸り音が鳴り響いてきた。まるで体の中で反響するような、低く大きいその音は、唸り声というよりは汽笛のような、あるいはほら貝の音のようでもある。体全体が包まれるような鳴り音に、ただただありがたくて畏れ多いと感じ入る。さてそろそろ音が小さくなりかけたと思えば、再び大音量が唸り出し、結局祝詞が終わっても音が止まないのが阿曾女がセイロに蓋をして止めた。



吉備津神社本殿  
(岡山市)



御釜殿へと続く廻廊



御釜殿の屋根で睨んでいる鬼瓦



御釜殿



後で女性に話を聞くと、正月の神事でさえ鳴らない時は全く音がしないという。あるいは親子の祈願者の内の1人にしか音が聞こえなかったり、または玄米を振り入れる前から音が出る時もあるという。不思議なことは、やはりいろいろとあるらしい。ちなみにこの日祈ったのは、無病息災。さすがに神様に一獲千金を願い出るわけにもいかず、さりとて残りの人生をかけてみてもらうほどの勇気もないので、無難なところとしたが、盛大に(と自分で思う)鳴っていただくと大いに元気づき、随分良いことがあったかのような心持になった。確かに、健康が一番のお宝だな…。

吉備津神社は、岡山駅からJR吉備線(桃太郎線)に乗って15分のところにある吉備津駅で降りると、あとは歩いて10分ほどです。のどかな田園風景を愉しみながら、松並木の参道を通っていくとほどなく到着します。時間に余裕があれば、一度(肝試しに?)足を延ばされてはいかがでしょうか。

## 岡山の白桃

岡山県の県の花は、桃の花。なかでも白桃は、柔らかな乳白色の肌にほのかに紅をさしたような姿で、そのみずみずしい果肉を食すると口の中いっぱい上品な甘さが広がり、まさに至極の味です。特徴は、やさしい外観とはうらはらの、深紅に燃えるような色をした種。なんだかあの桃太郎伝説に出てくる、ぎらぎらと真っ赤に光る温羅の眼を彷彿とさせます。白桃は、手に持った部分から変色しだすといわれるほどデリケートな果物。そのためその姿が自慢の贈答用には、まだ実が堅い時期から摘みます。これは、きれいですが桃本来の美味しさはどうしても落ちます。私が好きなのは、ちょっと形は悪いけど木で完熟するまでおいていた、地元で「食べよう」と呼ぶ(‘食べる用’からきたらしい)家庭用の桃。高速の「山陽IC」から下りて、北に向かえばじきに桃ののぼりがたった地元の産直場所がいくつかあり、こうしたところなら手に入ります。

とはいえ桃の時期はごく短いので、岡山にいらっしゃるなら、ぜひフルーツをふんだんに使ったパフェをご賞味ください。おすすめは、駅前からは少し離れますが、緑に囲まれた東山の丘に建つ岡山国際ホテル。旧ホテルオークラ岡山で、皇室御用達だったホテルです。8月なら旬の桃をそのまま飾った白桃パフェ、9月ならシャインマスカットのパフェが楽しめます。上質な生クリームにアイスクリームやソルベ(果汁の氷菓子)、ブラマンジェ等を贅沢に使い、それは丁寧に作られています。

ところで桃の原産国は中国。この地では、桃源郷の名前よろしく、桃は特別な不老不死の仙果とか。鳴釜神事で大いに気をよくして、なんだか死なない気がしてきたけれど、桃の産地に住んでいたおかげで毎年夏に桃を沢山食べてきたお陰だったのかな、と呑気なことを考えながら終わらせていただきます。

\*平成30年度「日本遺産(Japan Heritage)」として、

「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」が認定されました。



鳴釜神事  
(撮影禁止区域のため  
吉備津神社 HP より引用)



人には喜びや悲しみ、そして多くの思い出があります

# 私のすすめる一冊

心に残る『二冊の本』を教職員から学生みなさんに贈ります



## 「自分の木」の下で

大江健三郎 著  
朝日新聞出版



大学生の皆さん、大江健三郎さんをご存知でしょうか。

1994年にノーベル文学賞を受賞されましたが、名前さえ知らない学生が多いことには愕然とします。

私は看護学生の頃、哲学の先生に薦められて読みましたが、「飼育」「個人的体験」など難しい本ばかりで苦勞して読破しました。この本は先生が70歳の頃に中高生に向けて書かれたもので、先生が子どもの頃からどのように学んできたか、今どう学び続けているか、わかりやすく話してくれています。70歳になっても「難しい言葉」を理解するためにノートを作り、調べたことを書き込んでいるそうです。私たち医療の専門職は医療の発展に遅れないために、自分を高め続けるために生涯勉強しなければなりません。障害をもった長男の光さんやご両親についても考えさせられることが多い本で、ぜひ一読されて、一生学び続けることについて考える伝手にして欲しい一冊です。

純真学園大学 保健医療学部  
看護学科 田村 眞由美

## 歳月 (講談社文庫)

司馬遼太郎 著  
講談社



「佐賀県人が通った後は草も生えん」「佐賀県出身とは恥ずかしくて言えない」などと思っている貴方へ。ちょっと長めの小説ですが、読み終えた後は佐賀に生まれたことに誇りと感謝で一杯になること請け合いです。

司馬遼太郎と言えば「坂上の雲」などの歴史小説が数多くありますが、佐賀を舞台にしているのは、明治維新に司法卿として活躍した江藤新平の短い一生をダイナミックに描いた「歳月」だけです。

幼年時代、佐賀の片田舎で過ごした貧困生活の中で、藩校弘道館一番の秀才で塾長まで務めました。国民皆就学や司法制度などを進めた基になる江藤の才は何時、何処で培われたのでしょうか。詳細の記述は無いのですが、やはり佐賀藩公であった鍋島閑叟の指導力と長崎警備に役回りが西洋の風を肥前に運び独自の文化（国内では内に秘め、外国には技術の吸収に努める）の上に実を結んだのが江藤だと思うのです。

純真学園大学 保健医療学部  
検査科学科 川崎 勝也



## ケルトを巡る旅： 神話と伝説の地 (講談社+α文庫)

河合隼雄 著  
講談社



本書の著者である河合隼雄氏(2007年没)はスイスのユング研究所に留学し、日本人として初めてユング派分析家の資格を取った日本を代表する心理学者である。河合氏は国際日本文化センター所長も務め、日本人の精神性に関わる研究に力を注ぎ、国や地域に伝わる神話や伝説にその真髄を見た学者である。本書は氏が文化庁長官に就任している際に、自然に対する西洋と東洋の考え方やアプローチの仕方の違いから、それぞれに発展してきた文化、文明の違いに着目し、実はキリスト教文化の影響が強くなる前のヨーロッパの地に広く根付いていたケルト文化に日本の文化との共通点を見出し、取材、研究を重ね纏められたもの(2001年にNHKで放送された番組の拡大版)である。明治維新以降、医療も西洋文化の影響を受けて来た日本ではあるが、今こそ日本人の精神性や癒し(Healing)について、見つめ直すべきではないだろうか。そんな時代に読んでみたい一冊である。

純真学園大学 保健医学部  
医療工学科 守田 貴子

## キリン (角川文庫)

山田悠介 著  
角川書店



授業中の事だった。「参考になる本が図書館にあるから借りてみたらいいですよ」・・・と学生に言うと、「図書館、だる～」という答えが返ってきた。これはいかん!と次の週の講義の時、全員と図書館で待ち合わせた。何でもよいので一冊本を借りてみる。というのが本日の課題。

「だる～」の彼女を探してみると何やら文庫本を手に入れている。「あ、先生この本知ってる?」・・・と以外にも眼をキラキラさせて話しかけてきた。手にしていた本は自分の本で、大好きな本なのだそう。その内容を教えてくれる彼女は本当に生き生きして綺麗だった。「図書館、借りたい本ない」「そうか、じゃあおすすめの本教えて、図書館に入れてもらうね」・・・と彼女から借りた本がおすすめの1冊。びっくりするくらいに引き込まれ、一気に読了!若者の本を読み、ちょっと彼女に近づけたようで、何故か嬉しい私でした。

“天才精子バンクで生まれた兄弟、兄は天才数学者の道を歩み、弟の「麒麟」は失敗作として母と兄から見捨てられてしまう。家族の絆とは・・・”

純真短期大学  
こども学科 青沼 典子

## 疲れたときは、からだを動かす! アクティブレストのすすめ (平凡社ライブラリー)

山本利春 著  
岩波書店



この本は、疲れたときは、体を休める!という認識を変えてくれる1冊です。

スポーツの世界で注目を集める「アクティブレスト」疲れを残さず、疲れにくい身体をつくるための疲労回復のテクニックを医学博士のスポーツトレーナーがイラストを使って一般向けにわかりやすく解説しています。

アクティブレストとは、欧米のスポーツトレーニングの専門用語として使われるとともに、文字通りアクティブに活動しながら心身のリフレッシュを図るという意味で、「積極的休養」と言われています。疲れていればいほど身体を動かしたくない、できれば布団の中でゴロゴロしたい・・・そう考える人が多いのですが、アクティブレストはまったく逆の発想をします。最初は、少しツライかもしれませんが、今までの生活習慣に刺激を与えて、疲労を溜めない身体づくりをするきっかけにしてみたいかがでしょうか。

ぜひ読んでみてください。

純真短期大学  
食物栄養学科 田中 樹理

## そしてバトンは渡された

瀬尾まいこ 著  
文藝春秋



「血の繋がらない親の間をリレーされ、4回も名字が変わった17歳の女子高生」と聞いて、みなさんはどんな人物を想像しますか？

今の世の中、親が変わる、名字が変わるという経験をする子どもたちはそう少なくはないでしょう。事実婚やシングルマザー、ステップファミリーなど、家族のあり方も多様化しています。ですが、多様化の流れに翻弄され、複雑な思いを抱え、時には傷ついている子どもたちもたくさん存在することだろうと思います。

この本の主人公も、大人の事情により家族が次々と変わりますが、主人公のことを本当に大切に思う家族と接し、その思いを受け、せいちょうしていく、そんな物語です。

血の繋がりもたいせつかもしれないけれど、決してそれがすべてではない、家族の心の繋がりについて考えさせられるこの一冊を、読んでみてはいかがでしょう。

純真高等学校  
肥田 薫

## 漫画 君たちはどう生きるか

吉野源三郎 原作  
マガジンハウス



80年前の本が、昨今話題になっている。私も気になっていたの、手に取ってみた。すると驚いた。80年前の時代のことなのに、今の時代と相通じるものがある。「どう生きるか」というのは、人間にとって最も重要な人生の命題だろう。

それを、コペル君やおじさんという登場人物たちの目を通して、コペル君が私達なら解説してくれるのはおじさん。

その二人のやりとりである。コペル君の疑問は私達の疑問。おじさんは、このコペル君に生きていくヒントを与えていく。

そう、読んでいる私達にも質問やヒントを投げかけているのだ。とても分かりやすいのだ。

私も年齢はそこそこの年をとっているが、その私でも本を読んで絶句した。改めて考えることが出来た。年など関係ない。

生きていくのに少し迷ったら、1ページでもいいので読んでみてはいかがだろうか。

少しは、自分が生きていくのに、役立つのではないだろうか。

図書館員  
土師 可奈子

## 医学のたまご

海堂 尊 著  
理論社



「チームバチスタ」シリーズでおなじみの海堂尊さんの書かれた本です。

大学の医学研究室にひよんな事から「スーパー中学生」として入る事となった主人公の薫君。でも実はごく平凡な中学生でした。友だちから羨ましがられたり、大人の世界に踏み込み新鮮なことばかりで充実した日々を過ごしていく。しかし医学研究室という特異な世界の中でいろんな疑問を感じていく。そんな中でお父さんである曾根崎紳一郎博士や友達のアドバイスや助けを借りて薫君は果敢に立ち向かい様々な課題をクリアしていきます。

大学における研究とはどのようなものか、論文とはどういうものなのかという事をものすごく分かりやすく紹介してくれています。海堂さんが中高生に向けて書いた本という事で、コミカルで一気に読める本になっています。

これから医学関連の道に進む人は必読。大学の研究等に興味のある人もぜひ読んでみてください。

図書館員  
山本 哲也



## 純真学園図書館 利用案内

### 開館日時

月－金 9：00 ～ 21：00  
土 9：00 ～ 17：00

### 休館日

日曜日、国民の祝日  
月末の最終平日（月末整理日）  
館長が必要と定めた日

### 入館方法

#### 大学生・院生・短大生

入館ゲートのICカードタッチ部分に学生証をあてて下さい。

#### 教職員・高校生・その他の方

入館ゲートの磁気カードを通す部分に磁気カードを挿入の後、手前に引いて下さい。

ゲート解放後、入館して下さい。

### 場所 学園本館 地下1F



①学園正門から  
真っ直ぐ進みます



②向かって左の建物が  
本館

③エレベータか階段で  
地下へ降りて下さい



### 貸出

借りたい本と図書館カードをカウンター職員にお渡し下さい。

	貸出冊数	貸出期間
学生	10冊	2週間
教職員	10冊	1ヶ月

### 貸出期間の延長

一度だけ貸出期間の延長ができます  
(予約が入っている場合を除きます)。

### 貸出予約

貸出中の本について、次の貸出予約ができます。

### 退館方法

#### 大学生・院生・短大生

退館ゲートのICカードタッチ部分に学生証をあてて下さい。

#### 教職員・高校生・その他の方

退館ゲートの磁気カードを通す部分に磁気カードを挿入の後、手前に引いて下さい。

ゲート解放後、退館して下さい。

Q1 学生証を忘れたら入館できませんか？

➔ A1 入館できません。

Q2 飲食はなぜ禁止なのですか？

➔ A2 本・カーペット等を汚すからです。

### 貸出できない本

背表紙に以下のシールが貼っている本は貸出できません。図書館内で見て下さい。



背表紙シール貼付 (例)



### 返却

借りている本をカウンターへお持ち下さい。返却手続きをいたします。

※返却が遅れた場合は、返却が遅れた日数分のペナルティが発生します。

### コピー

図書館内の本・雑誌のみコピー可能です。(白黒 1 枚10円。カウンターへ申込)

### 文献の取り寄せ

雑誌記事のコピーや本を他大学から取り寄せる事ができます (実費)。

### お知らせメール

学生連絡システム (エマジェンシーコール) で図書館からのお知らせをメール連絡しています。必ず確認して下さい。

## ★ 本・雑誌を探す (OPAC)

### アクセス方法

純真学園大学HP

<http://www.junshin-u.ac.jp/>

➔ 左下バナー「図書館」

➔ 検索場所を選択



学内PC以外

検索画面 (OPAC) へ移動

純真学園図書館OPAC



本の題名やキーワードを入力し検索ボタンを押す

結果の中から、目的の本の名前をクリック



書名をクリック

詳しい説明が出ますので、

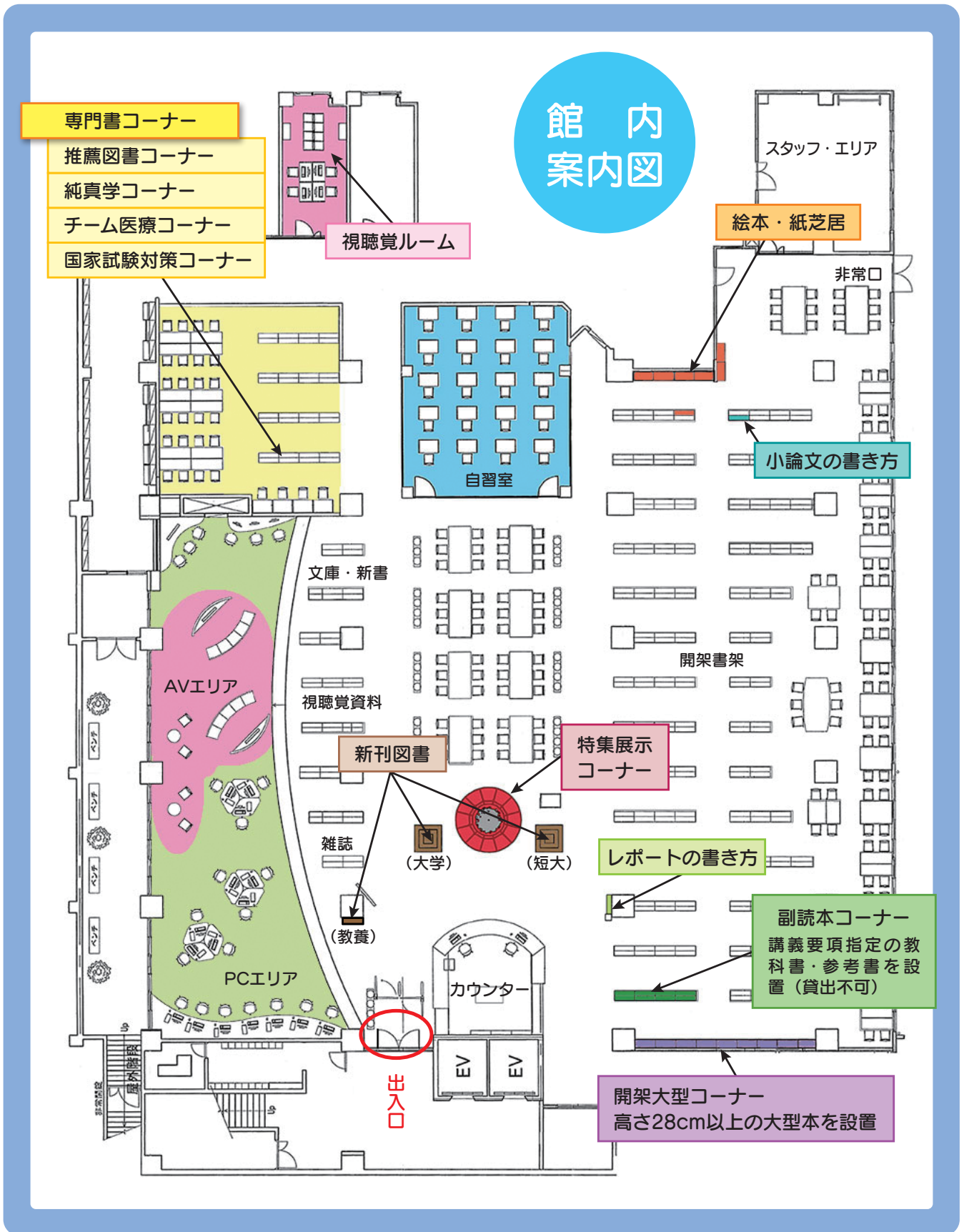
- (1) 書名
  - (2) 請求記号
  - (3) 配架場所
- をメモしましょう。





Q3 ノートやプリントを館内でコピーしたいです！ ➡

A3 著作権法によりできません。  
丸善売店へどうぞ。



# 図 書 館 だ よ り

## 図書館からのお願い



図書館内では  
お静かに



携帯電話は  
マナーモードに

**返却遅れのペナルティについて**

本の返却が遅れるごとに、**遅れた日数分のペナルティ（貸出停止期間）**を科しています。  
「大事な実習時期に借りられない!」という事が無いように注意して下さい。



飲食は館外で



携帯電話などの  
充電はしないで



借りた本は返却日  
までに返して



大事な物は  
必ず持ち歩いて

## 《図書館からのメッセージ》

### ■学生のみなさんへ

人に聞く、ネットで調べるなどいろいろなやり方がありますが、そのような時、大いに図書館を利用して下さい。

本を読むことを通して、新しいことを知る楽しさを体験し、新たな自分の発見に役立てて下さい。

図書館への意見なども歓迎します。

それが、より利用しやすく役立つ図書館改革の一歩となります。

★図書館へのご意見・ご要望は★メールまたは、図書館スタッフまで★

純真学園図書館 e-mail : [library@junshin-u.ac.jp](mailto:library@junshin-u.ac.jp)

平成30年度図書館長  
加藤亮二 (大学副学長)

平成30年度図書館運営委員  
木部 泉 (大学看護学科)、小林龍徳 (大学放射線技術科学科)、天川雅夫 (大学検査科学科)、  
伊藤英史 (大学医療工学科)  
橋本聖子 (短大食物栄養学科)、青沼典子 (短大こども学科)、斎藤貴子 (純真高校)

平成30年度図書館スタッフ  
山本哲也 末益清美